

令和6年度第2回浦安市行政改革推進委員会 会議録

○日 時／令和6年11月22日（金） 15:30 ～ 16:15

○場 所／市役所4階 S2会議室

※一部委員は、リモートで出席

○出席者／池田委員、李委員（リモート）、平野委員、青山委員、岩田委員（リモート）、染谷委員（リモート）、佐藤委員

○事務局／野崎総務部長、宇田川総務課長、小川行政改革推進室長、高津副主査、腰塚主任主事

○議 題／（1）令和7年度事務事業評価の実施について

○報 告／（1）令和6年度職員提案の実施について

1 開会

事務局より、委員8名中7名の出席により過半数を超えることから、本会議が成立する旨が確認された。

2 議題

(1) 令和7年度事務事業評価の実施について

事務局より、令和7年度事務事業評価の実施の目的、評価の方法、前回事務事業評価の課題と対応、対象事業、実施スケジュールについて説明を行った。

会 長： 令和7年度に実施する事務事業評価についてご意見をいただきたいが、項目が5つあるので、会議の効率化を図るため、3つに区切って議論する。

「1 事務事業評価実施の目的」、「2 評価の方法」

各委員：（意見なし。）

「3 前回事務事業評価の課題と対応」

委 員： 新しい事業はすぐに結果を求めがちだが、事業開始後、成果がすぐに出ない事業もあるため、評価の実施は今回ではなく、もう少し期間をあけて実施することも考えられるのではないか。

事務局： 事務事業評価の結果は、次年度予算積算の参考資料に活用することが1つの目的であり、評価結果のまとめは概ね10月を目途としている。開始して間もない事業や、年度が終わってから効果が出てくる事業もあるので、事業内容を見て判断

していきたい。

委員： 市の事業には、短期的な施策に関するものもあれば、中長期的なものもあると思うが、短期的なものを中心に評価をするのか。

事務局： 前回実施した事務事業評価において、短期に改善する事業もあれば、中長期的に改善する事業もあった。今回も同様に実施していければと考えている。

また、評価の結果、廃止・抜本的な改善と分類されて、市民サービスに直結しているような事業は、仮に廃止の判断がされる場合、直ちに廃止するのではなく、廃止するにしても数年後などと設定して事前に周知するなど、極力混乱が起きないように対応したい。

委員： 実際に評価の結果、中止したものとか、具体的に再考するようなものが出てきているのか。

事務局： 前回の事務事業評価の結果で廃止・抜本的な改善と分類された中で、廃止について対象者の方に事前に何年か時間をかけて説明をしてきた事業もある。また、子どもに関する事業で、経済情勢等から、適正な改善実施時期を見定めている事業もある。

「4 対象事業」、「5 実施スケジュール」

委員： 令和3年度から令和5年度に、新たに開始した事業は具体的にどのようなものがあるのか。

事務局： 前回行った、令和4年度の事務事業評価の対象にした事業が約 800 程度あった。そこから評価すべき対象を精査した中で、数を絞っていったが、その時に評価を実施できなかった事業がここに掲げているものとご理解いただきたい。

委員： 評価の結果、廃止・抜本的な改善に分類された事業について、委員会にどのような役割が求められるのか。

事務局： 前回の事務事業評価においては、市が考えた改善方策について、様々なご意見をいただき、審議していただいた。今回も同様に審議いただきたいと考えている。

委員： 我々民間企業は、雇用がなかなか増えていかない中で、実施すべき事業と見直さなければならない事業の線引きを悩んでおり、行政も同じだと思う。職員の数もどんどん増えていくわけではないと仮定し、事業もある程度選択と集中をしなければいけないと考えると、この評価の中で抜本的な改善をすることも大事だが、廃止の選択もしていかないと新しい事業に取り組むことが困難ではないかという懸念があるが、そのあたりどう考えているのか。

事務局： 委員ご指摘の通り、職員の配置には苦労しているところである。市民ニーズは多様化し、また様々な施策を行ってきており、非常に厳しい状況だが、事務事業評価を実施する必要があると考えている。

その上で組織として、この評価した内容を、人事、財政、また施策を行う企画と密に連携を取り、情報共有しながら進めていくことが、今後重要と考えている。

「その他」

会 長： 事務局へのお願いとなるが、委員の皆様からのご意見を参考意見とし、反映できる部分はぜひ反映していただき、令和7年度の事務事業評価を実施されるようお願いする。

3 報告

(1) 令和6年職員提案制度の実施について

事務局より、令和6年度実施の職員提案制度の実施概要について説明を行った。

委 員： 良い制度だと思う。予算を組んでいるが、どこから支出しているのか。

事務局： 市の予算である。コロナ禍の期間は褒賞を中止した。

委 員： 市の予算ということだが、この委員会では、コストを見直すという様なことを議論している。決して無駄とは言わないが、非常に厳しい言い方をすると、工夫をすることは当たり前のことで、民間でも行政でも同じである。褒賞や募集の期間を設けないと、職員から意見が出ないのか。

事務局： 業務をしている中で職員は様々な改善をしており、さらなる改善の機運を高めるため、職員提案制度を実施している。各課が行っている改善を集約して、良いものは全庁で共有し活用することで、業務の効率化に加え、市全体の経費の削減にも繋がり、効果を最大限に高めたいという趣旨で提案制度を行ってきたところであり、ご理解いただければと思う。

会 長： 概ね何件の提案があったのか。

事務局： 令和元年度は約 60 件である。

また、本制度はコロナ禍の期間は褒賞を中止していたため、前回の事務事業評価の対象外であった。来年度は対象となり、コストについて評価するので、本委員会でご意見をいただければと思う。

会 長： 他に意見がないようであれば、報告は終了する。

事務局から次回の会議スケジュールについて説明をお願いします。

事務局： 次回の会議は、1 月を予定している。後日、日程調整のご連絡をさせていただく。

4 閉会

会 長： 以上で令和6年度第2回浦安市行政改革推進委員会を閉会する。

(16時15分終了)